

## 「身近なところから世界へ」

天理市立福住中学校 二年

岡西 紗知

「さっちゃんのお父さんは何のお仕事してるん？」

と友達に聞かれるたび私は、「水道工事やで。」

とあたりまえのように答えていた。しかし、よくよく考えてみると、私は父が仕事をしている姿をちゃんと見たことがないし、具体的にどんなことをしているのかさえも分からないでいた。でも、私の家には毎日のように近所の人から工事の依頼の電話がかかってくる。絶対に父が電話に出るとは限らないので、私もたまにその電話に出ることがある。「お父さん居るかな？洗面所の水が漏れてんねん。また見に来てほしいって伝えたいて。」と言われる。私はその状況がよく分からないけど、水のトラブルがあって困っているんだなど、電話を聞いていつも感じていた。

父はそんなふう困っている人の所へ行つて修理や物の取り替えなどをする。私が小学校の時何度か小学校のトイレの水漏れや手洗いの場の水道の凍結を見に来てくれた。私は父が修理してくれている姿を少しだけ見ることができた。色々な道具を使ってねじをゆるめ、水が漏れている部分のゴムを取り替えていた。私が見たのはこのようなことだったけど、父の仕事はまだたくさんあるようだ。作文を機に父の仕事について聞いてみた。父は水道の配管を主にやっているといる。私たちの生活に水道は欠かせないもので、水道から水が出なくなってしまうとても困る。父はそんな人のために仕事を毎日がんばってくれているのだ。

世界では今、水不足や水質汚染などが大きな問題となっていて、たくさんの人々が苦し

んでいる。十一億人もの人々が安全な飲み水を得ることができておらず、アジアでは、西アジア、南アジアを中心に多くの人が水不足に苦しんでいる。東アジアの黄河では河川の水が途中で使い尽くされて河口まで辿りつかない、「断流」現象が生じているという。水質汚染のため、地球上の二十四億人の人々が衛生的な環境に暮らすことができていないともいわれている。そして、毎年二百二十万人以上の人が汚染した飲料水や不十分な衛生設備にかかわる病気で死亡している。

このように世界の多くの人々が苦しんでいることを知り働く父の姿からも水の大切さを改めて感じることができた。これからもずっと水を大切にしていくなか、私たちにできることはあるだろうか。私たちは今、水に恵まれているが、これから先、水不足などの自然災害に見舞われるかもしれない。そのようなことに備えるために、やっぱり節水はとても大事なことだと思う。日常で手を洗う時や顔を洗う時などのさまざまな場面で小まめに水を止める。湯船に入れたお湯を次の日に洗濯機で使うなどして再利用する。こうやって生

活の色々な場面に目を向けてみると、身近に節水につながるものがたくさんあるはずだ。私は多くのの人に水の大切さを知ってもらいたいから先の地域、日本、世界の水について考えてもらいたいと思う。私もこれから水について考えて、自分ができることは進んでやっつけていきたい。父の仕事から世界の水の危機の状況まで知ることができ、考えるきっかけを与えてもらって良かったと思う。

私たちの行動で世界の水の危機を救えるのなら、私たちは何をすべきなのか。それを考えるのは私たちなのだ。